

## 重点施策9 地域ぐるみで取り組む青少年補導の充実強化

### 【施策方針】

情報化・国際化・少子化、家庭教育の弱体化など、激動する社会の変化に伴い、人と人との連帯意識の希薄化、価値観の多様化、子どもたちの体験不足などが年々深刻化している。

こうした青少年を取り巻く環境の変化が、青少年の初発型非行を誘発する大きな要因ともなっている。

こうした状況のもと、次世代を担う青少年が心身ともに健やかに成長することを願い、青少年の健全育成と非行防止のために、関係機関と連携し、地道な活動を展開していく。その際、青少年センターが「情報収集・発信センター」としての機能を一層発揮し、学校・警察・関係団体と情報交換を緊密にして、補導活動を行う。

また、補導活動の一層の充実及び青少年をめぐる環境点検と有害環境の浄化に努めるとともに、特にネット犯罪防止に向けての補導員自身の研鑽にも努める。

### 【実施状況】

#### (1) 主な施策・事業

- ① 急増するネット犯罪への研修を深め、補導活動・相談活動の充実に努める。
- ② 環境浄化活動・防犯相談所活動の充実に努める。
- ③ 補導員研修会等を開催し、補導員相互の理解と一層の研鑽に努める。

#### (2) 施策・事業の実施状況

##### ① 補導活動の充実

社会の変化に対応し携帯電話やパソコンのネット犯罪、カラオケ、ゲームセンター、喫煙、薬物乱用等に留意し実態把握に努めるとともに、不安定な心理の青少年に「愛の声かけ」を中心に、適切な助言アドバイスをを行いながら支援・援助活動を行った。

市内12小学校区に12支部を擁する補導員会では、189名の会員が地区補導・中央補導・地区別特別補導（※夜市、てやてやウェーブ、花火大会などは中止）など、130回の補導活動に延べ621人の補導員が参加し、地区の実態に応じた健全育成活動、危険箇所の点検等を展開した。

##### ② 環境浄化活動・相談活動の充実

青少年のためのより良い環境づくり、地域ぐるみの点検、実態調査などの活動を促進し、不良・有害環境の整備、浄化を図った。

「学校警察連絡協議会（学警連）」と防犯協会等が連携し、市内全域に29の防犯相談所を設置し、悩みをかかえる子どもたちの発見と支援に取り組む相談活動を展開しており、青少年センターでも、来所または電話による相談に応じている。

令和2年度は0件だったが、引き続き連携を密にし、必要な助言や指導援助を行い問題

解決に当たるため積極的に対応するよう心がけている。

### ③ 補導員研修会の開催

補導員の研修・交流の場として、市補導員研修会、先進地視察研修、青少年健全育成推進大会（西条市）など各種研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となったり、オンライン開催となったりした。

コロナ禍において、補導員の研修・交流の場の多くを失うこととなったが、役員会及び地区長会の開催（年6回）や各地区特別補導（夏季・冬季）、中央補導の実施により、補導員会相互及びセンターとの連携・情報共有に努め、補導員個々の青少年の健全育成・非行防止の意識向上に取り組んだ。

### 【事務事業点検評価委員意見】

- 八幡浜市では、地域ぐるみで子どもの育ちを支えるため、教育委員会が中心となり保護者や地域の住民、関係機関が学校運営を支援する仕組みづくりを整えている。また、青少年の健全育成や世代間交流、体験活動等、学校・家庭・地域・関係機関との連携により、子どもの育成活動を推進している。これらの着実な取組が、県下の他市町と比べ八幡浜市の青少年の問題行動が少なく、子どもたちの生活態度が安定している要因の一つであると考えられる。また、適切な助言を行いながら熱心に支援活動に取り組んでいただいている青少年センターを拠点とした補導員会の活動も大きな支えとなっている。
- 青少年の健全育成のため、学校警察連絡協議会と補導員会・防犯協会・警察等が良好に連携しながら、今後とも補導や相談等の活動、さらに急増するネット犯罪への対応等に取り組む、より良い環境づくりに努めていただきたい。あわせて、八幡浜市青少年補導員会活動方針に基づき、奉仕の精神をベースにした青少年の健全育成並びに非行防止活動に補導員の方々が取り組んでいけるよう、今後も、青少年センターの「情報収集センター」としての機能の充実に力を注いでいただきたい。
- 「ネット犯罪の現状や対策」については、八幡浜警察署生活安全課など関係機関との連携を深めながら、補導員会研修部を中心とした研修に取り組んだり、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見極めながら県外の補導活動の状況などについての研鑽を深める視察研修を行ったりしながら、補導員の更なる資質向上に取り組んでいただきたい。また、今後も学校・補導員会・防犯協会・警察署生活安全課などとの連携を一層密にしながら、情報の収集など、より良い環境づくりに邁進していただきたい。
- 各校ではマチコミなど連絡ツールの活用による保護者へのメール配信により、保護者の登下校に対する安心・安全への関心を高めるとともに、犯罪被害の防止策としての補助的役割を果たしている。また、各校ともに台風や警報などの災害情報のほか、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う注意喚起や、不審者情報などの緊急的または突発的な情報をメール配信でき、学校と保護者間で情報を共有できるようになっている。そして、その主導的な役割を果たしているのが教育委員会である。今後も、児童生徒を事故や犯罪から守るため、学校

との連携を密にし、警報発令時における登校の判断や不審者情報の配信などに努めていただきたい。

#### 【自己評価】

- 青少年センターが「情報収集・発信センター」としての機能を発揮し、学校・警察・関係団体と情報交換を緊密にして補導活動を行った。補導員の方々が市青少年補導員会活動方針に基づき、奉仕の精神をベースにした青少年の健全育成や非行防止活動にしっかり取り組むことができた。毎年度7月初旬に、青少年センター運営審議会を開催し本市における青少年の現状、健全育成・非行防止のための具体的な活動について報告しているので、引き続き、審議会を構成する団体に向けた情報提供に努めたい。
- 補導員会研修部を中心に、先進地視察など補導員の研修・交流の場を企画しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で全て中止（一部オンライン開催）となった。次年度以降、引き続き学校・防犯協会・警察生活安全課などとの連携を一層密にしながら情報を共有し、青少年のためのより良い環境づくりと補導員の更なる資質向上に取り組むたい。  
なお、補導員会の視察研修や交流会については、感染状況を見極め、事務局と本部役員会地区長会とが十分協議のうえ開催の可否を慎重に判断したい。
- 令和3年度は、一般補導員及び教職員補導員189名が補導活動に尽力している。夜間補導では子どもたちに出会うこと自体が少ないが、今後も青少年の健全育成・非行防止という原点を大切に、地道な活動の継続・発展を目指していきたい。
- 青少年を取り巻くインターネット利用環境が一層多様化する中で、SNSに起因する事犯の被害児童数は近年増加傾向にあり、子どもの犯罪被害は深刻な状況にある。一方で、悩みをかかえる子どもたちの発見と支援に取り組む相談活動を展開していく中、問題の深刻化を未然に防ぐ観点から、子どもたちにとって身近なSNSを活用した相談体制のあり方について、当市の実情を踏まえて検討していきたい。